



三條北ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND

国際ロータリー会長 ビル・ハントレー 第2560地区ガバナー 大島精次

例会日
1995. 6. 25
累計 No 420
当年 No 49

会長／大野新吉

幹事／米山忠俊

SAA／馬場直次郎

例会日／火曜日 PM12:30～1:30

例会場／三條ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局／三條市西四日町3-15-34

ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

FAX ☎33-8972

行事： 八十里越ハイキング&会長幹事慰労会 於 嵐溪荘

出席： 本日の出席 53名中49名（内記帳13名）

先週の出席率 54名中47名 90.57%（前年同期 — %）

先週のメイクアップ： 6月14日 ラスマリナスRCへ 中條耕二さん

16日 吉田RCへ 石川勝行さん

17日 新潟西RC（20）周年へ 大野新吉さん 米山忠俊さん

21日 三條RCへ 中條耕二さん 山上茂夫さん

26日 三條南RCへ 石川勝行さん 中條耕二さん 羽賀一夫さん

斎藤 正さん 堀川正幸さん 高橋彰雄さん

坂本勝司さん 西山 斉さん 加藤 実さん

佐藤文夫さん

ビジター： 三條RCより 斉藤 隆さん 渋谷正一さん 藤田紘一さん 林 光輝さん

外山雅也さん

三條南RCより 西巻克郎さん 佐藤嘉男さん 大竹和男さん

会長挨拶： 大野新吉

梅雨真盛り前日の大雨で本日の八十里越えを大変心配しておりましたが早朝より青空の上天気絶好の登山日和になり、お陰様で全員無事嵐溪荘に辿りつく事が出来ました。鞍掛峠での昼食は道中で採った山菜（うるい、山うど、細竹、とりあし、みずな、わらび etc）を沢の水で調理苦労の末鍋にお湯がたぎり出来上がった山菜汁の味、そして坂内さんが採った山うどと味噌の味は眼前の宏大なロケーションと合まって格別の味でした。昼食後の道中は私にとって左足の痛みで大変厳しい下山となり苦労の末吉ヶ平山荘にあえぎあえぎ辿りついたと表現するのがびったりの下山でした。しかしその道中で会員の友情を深く肌を感じる八十里越えとなり参加各位に深く感謝申し上げる次第です。山越えの疲れも、汗も嵐溪荘の湯でサッパリとれ初の夫人同伴の会長幹事慰労会で、

あらためてこの一年間幹事、SAA並びに会員各位にお礼申し上げます。又事務局五十嵐さんには殊の外ご厄介になり無事一年を終える事が出来ました。又本日は特別にニコニコボックス会員のご協力で年間の社会奉仕活動にかかわる精算ができ若干でも次年度に繰越が出来ました。又本日このコメントの秀作賞として全員を選ばして致きたいのですが人数が3名と限定されていますのでその中から石川友意さん、今井克義さん、柄沢憲司さんのご三名を選ばして致します。大変有難うございました。又石川友意さん本日で退会される訳ですが最後の最後迄例会等に出席され本日の慰労会に出席、感激のニコニコボックスコメントで出席全会員感動していると思います。これからも例会で寄せて致きお会いする訳ですので心は北クラブ会員私共とおつき合いをさせて致しますので何卒宜しくお願いしますし又の復帰を祈念しております。最後にこの一年会長、幹事他役員にお寄せ下さいました友情に対し衷心よりお礼申し上げ次年度味方年度が十周年記念が会員全員のご協力のもとで成功裡に進められますことを祈念申し上げ会長挨拶を終わらせて致します。誠に有難うございました。

合掌

幹事報告： 米山幹事

なし

スマイルBOX秀作コメント賞は今井克義さん、柄沢憲司さん、石川友意さんでした。

ニコニコボックス：

今井克義君 会長指針として「心の根をはろう」とおっしゃった大野さん。一年前の最初の会長挨拶の時には「政治、経済の話はしたくない。趣味の庭木の話でもしながら地道に一年間を進んでゆきたい」と決意を述べておられました。今日のこの機会に、一年間の会長挨拶の中から大野さんの人柄がにじみでている言葉を、私なりに拾い出してみました。

去年の夏は大変な暑さでしたが、8月2日の挨拶の一部です。

毎年7月～8月の二ヶ月間海の資源保護の為に底引網は禁漁となり、この月に入りますと急に市場に出廻る魚の品数が目立って減ってまいります。この底引網にかわって、さし網、ごち網、籠漁、一本釣りなど比較的魚にやさしい採り方をする漁法で俗に言われる「皿ぎ物」といわれている小魚、例えば鱮、小鯿、鰯、口細鰈、木鰈、飛び魚、舌ビラメ等、どれを取っても夏魚独特な淡白な味で、ビール、冷酒の酒の肴となります。今夜もこれ等のつまみで一献いかがですか？

10月18日にはこんなことをおっしゃいました。

連日の猛暑はどこへやら、生かされている喜びを肌いっぱい感じられる今日頃々となりました。この喜びは人間ばかりでなく他の動物も植物も特に私達目に映る庭の木々もやっと我が世の春ならず秋を謳歌しているごとく新芽を出したり葉のつやを一層誇示している様見受けられます。建物と樹木とは一体なんだと思

